

雨水の利用を思う

逗子市立逗子中学校

二年

瀧脇 慶伍

川を眺めるのが好きである。

川には絶えず雨水が流れ込み、下流を目指

している。雨水の流れを眺めるのが好きだと

言い換えてもいいだろう。

僕が普段眺めるのは、家の近くの遊歩道が

整備された小工川だ。この小工川で、

雨水は絶えず上流からきて、下流へ流れてい

く。そんなことに思いを馳せイいて、ふと思

いついたことがある。

この絶えず流れる雨水のエネルギーを私に

らの生活にいかせないものか。

いくら小工川だとはいえ、絶えず雨

水が流れ下っていることの価値は大きいと思

う。なぜなら、多くのエネルギーを、継続的

に得ることができからだ。

そこで、川沿いの各家庭が、自分の目の前

の川に小型の発電機を設置すればいいと私は

思う。太陽光での発電は比較的普及している

が、雨水の流れを利用した発電が個人に普及

していない現状が、残念でならないと思う。

私の祖父母の家では、太陽光パネルによる発電をしており、モニターに、その日の発電量と家庭の電気使用量が表示される。これによて、太陽光による発電がどれくらいで、それが家全体で使っている電力の何パーセントに当たるのかが、一目で分かる。川下の水力発電も、これと同じことがあつてしかるべきではないだろうか。

東日本大震災以降、脱原発の動きも背景に「自然エネルギー」に期待する声が数多く上

が、っている。しかし、日本のせすい国工に新たなダムをつくらせて発電を行うのは難しいと考える。なぜならダムの建設に適した土地そのものが少なくなつてきているうえ、ダムの建設には巨額の費用が必要になるからだ。さらに、自然環境への影響も懸念される。

大規模な施設はつくれないが、自然エネルギーを上手に利用したい！

これが国民の思いであると思ふ。そのういう背景もあつて、川の流れる眺め、いた

時に、小規模な発電のことを思っただろう。
私は、小工な川の個人個人の発電でも、日
本全国として見れば非常に大きな安定した電
力を得られるようになる。と期待している。生
いる利点はこれだけではない。日本経済にも
利点は生いると思う。なぜなら、現在の日本
では原発がほとんど稼働しておらず、その代
わりに火力での発電を増やしたことになる。石
油などの輸入費がふくれ上がっているからだ。
これを打開する一つの手かけになれば、と
思う。

この提案の根底にあるのは、雨水にもって
親しみたい。ということだ。雨は濡れてしま
ういやな面もあるが、何といても自然から
の大切な大切な恩恵である。もっと雨の音に
耳をすませ、川の流るに心をときめかせても
よい。の下りないだろうか。生活における雨水
との関わりを考えた上でいいだろうか。
「各家庭下の小規模水力発電」によって雨水
と密接に関わる生活がしたいと願っている。